

## 社会システム科学概論第9回

- 1 映像人類学のフィールド
- 2 フィールドワークにおける観るもの・観られるものの関係

## マヌーシュ

- 大森康宏 移動民の映像人類学 国立民族学博物館のHPに大森氏の作品サイトがある。
- フランスには10万人の移動民族マヌーシュ、ロム、シンティなどを数えることができるが、そのうち2万人ほどがマヌーシュのグループである。彼らは、人工的国境の境界にとらわれることなく、天地のはざまを馬車でゆっくりと移動しながら生活している。この映画は、フランス社会の枠から外れたマージナルなところで籠作り、季節労働などで生計を立てて生活する、マヌーシュたちの日常生活と宗教観を扱った作品。

## 映像人類学

- 民族誌の映画:
- 1 研究用に撮影されたもの(商業ドキュメンタリーとの差)。
- 2 撮影・制作が研究者自身。
- 3 文化・社会生活に関わる人間行動の映像
- 具体的表現に優れるが、観念的把握を提示しにくい 時代を超えた資料となりうる

## 民族誌調査

- 19世紀までは、航海日誌・探検記、植民地行政官や宣教師の記録
- 20世紀初頭より、「異文化理解」社会人類学
- 先進国の研究者・学生が途上国の庶民を観察 非対称の関係
- 1)表象の権利 ポストコロナル
- 2)文化の創造 文化は政治・観光?

## 海外フィールドワーク

- 1980年代まで:拠点大学、研究所のプロジェクト 海外研究はグループ
- 1990年代より:個人研究 研究助成
- 2000年代:学生・大学院生で海外
- 細心の注意を要するのは、1)安全性、2)地の利(インフラ、利便性)、3)リスク管理が可能

## フィールドワークの人間関係

- 調査対象者のプライバシーを守る データの公開には許諾が条件
- 利害関係に関わる話題 1)ジャーナリスト型(スクープ)2)研究型(長期観察)
- 調査公害にしない グループ研究
- 調査行為:基本的には迷惑行為 被調査者や社会に何らかの形で還元することが重要